



春日若宮御祭禮

松下  
行列

圖中



八波 3  
959  
2





明 853  
953  
巻 2



まへ 春はる日ひ多おほふりの毎まい年ねん二に月げつと十じゅう一いち月げつと中ちゆうのの日ひ。  
あつ 執しやく使し船せん以もつ津つ糸いと向むかひのありく。規き式しきいと多おほく世よをと是こゝにに。  
ひ 一ひと向むかひの知しるるをを小こ河がへへとと只ただ見みゆゆのの及およぶぶ事こと。  
のこ 耳みみ 圖ず。  
ま 若わかくく又また以もつふりの。六ろく月げつよ幸さいふふりの事こと。十じゅう一いち月げつよ  
七しち日にち小せう治ち方ほうはは方ほう同どう時じよ依よ執しやく行ぎやう。教きやう年ねんとと經きやう  
ま されるをを見み量りやう一ひと糸いとくく。よよろろててももろろとと知しるる  
人ひと又また古こ人じんよ累らい年ねん尋たづねねすすとといいくく事こと。

1110



繁く。枝のまぢりくさぬりありて。まはる  
 てもふお十よ及びといくども。わは撰び廣る人  
 もくふれ。年未為。秘事。毎々反故も捨ごと  
 く。又志も四しが。今人の業と云ふ。りりす  
 見せし。るとんぬ。及び。秘事。と云ふ。取との有  
 る。或は。自登。よ。宮。一。平。ぬ。朽。く。い。見。る。人。事。此。非  
 と。捨。て。志。よ。由。り。一。行。り。ん。と。と

享保庚戌孟冬日

荻原叙



○松之下渡り目録十一月二十七日未剋

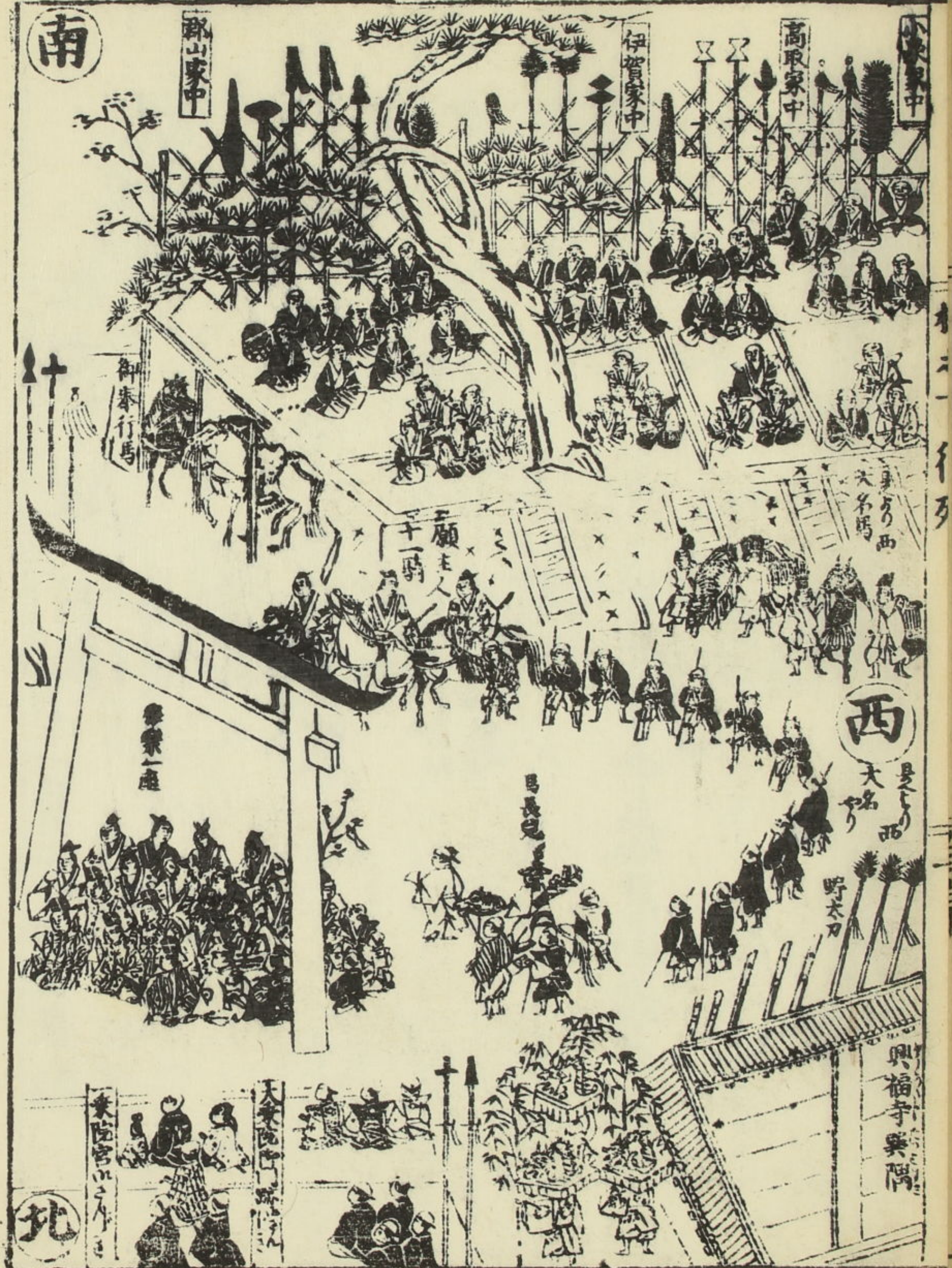
- |     |     |     |    |     |     |             |       |    |      |
|-----|-----|-----|----|-----|-----|-------------|-------|----|------|
| 祝津幣 | 十列兒 | 日使  | 陪後 | 神子  | 郷神子 | 奈良神子        | 拜殿八し女 | 細男 | 猿樂二村 |
| 馬長兒 | 競馬  | 射手兒 | 隨兵 | 乗込馬 | 將馬  | 野太刀中太刀小太刀長刀 | 願主人   | 數鐘 | 田樂二座 |



圖之



松之下





松之下渡り次才

大鷲居入り東、  
以旅おまへ候

祝幣いのちまひ 白妙しろたえ

拍手あはれ 冠かんむり

赤衣あかぎ 禪掛ぜんか



戸上とがみ 公人こうじん

同

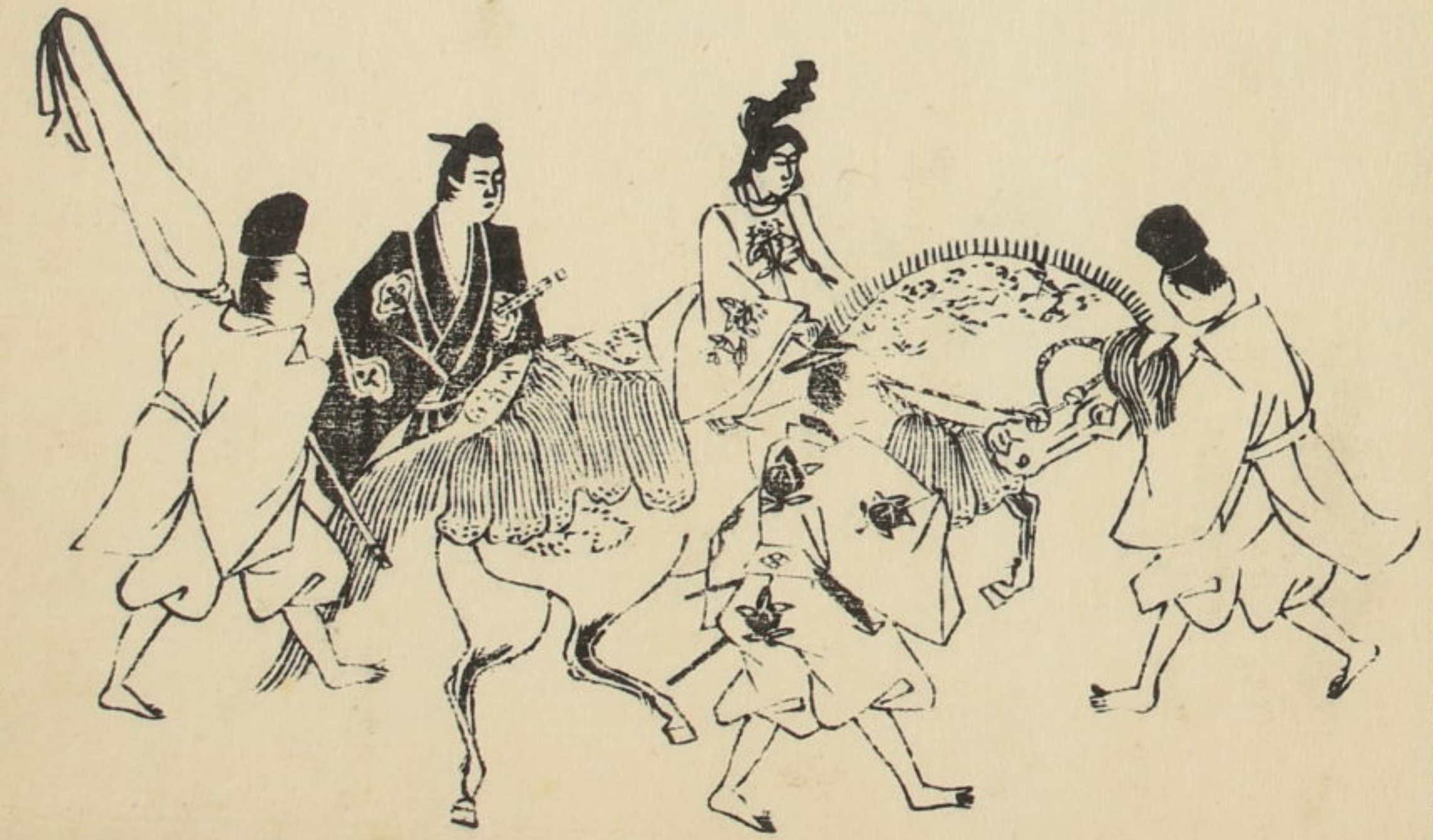


梅白杖うめしろえ

白布しろぬい 五丈余ごじょうあまり  
五下ごげ 小も派上せもはじょう と







十列之兒

小思衣  
おん  
まの



於て  
向



古への殿上人五位中将お勅し由  
今ハ伶人口人冠の方も様の遠り花と  
りさするふ尻膝か  
の前替解と  
華表の歌と



日使

馬さ袍冠の中子子友の造り花と云ふ  
用白敷より其日の所仗とね勤より日使と云  
古一ハ用白敷  
所勤のより委ハ南大門  
行列より



陪後 伶人二人赤之袍冠のちよ山吹の造り花と

影向のお子  
向ひる上母  
笛  
箏  
音  
楽



松之下行列

五





がうのまこ  
御神子

公之下行



横井村  
やいぬかんざう  
八嶋源宮



御後

若宮拜殿  
ハシ女

時子より  
大教  
多少あり

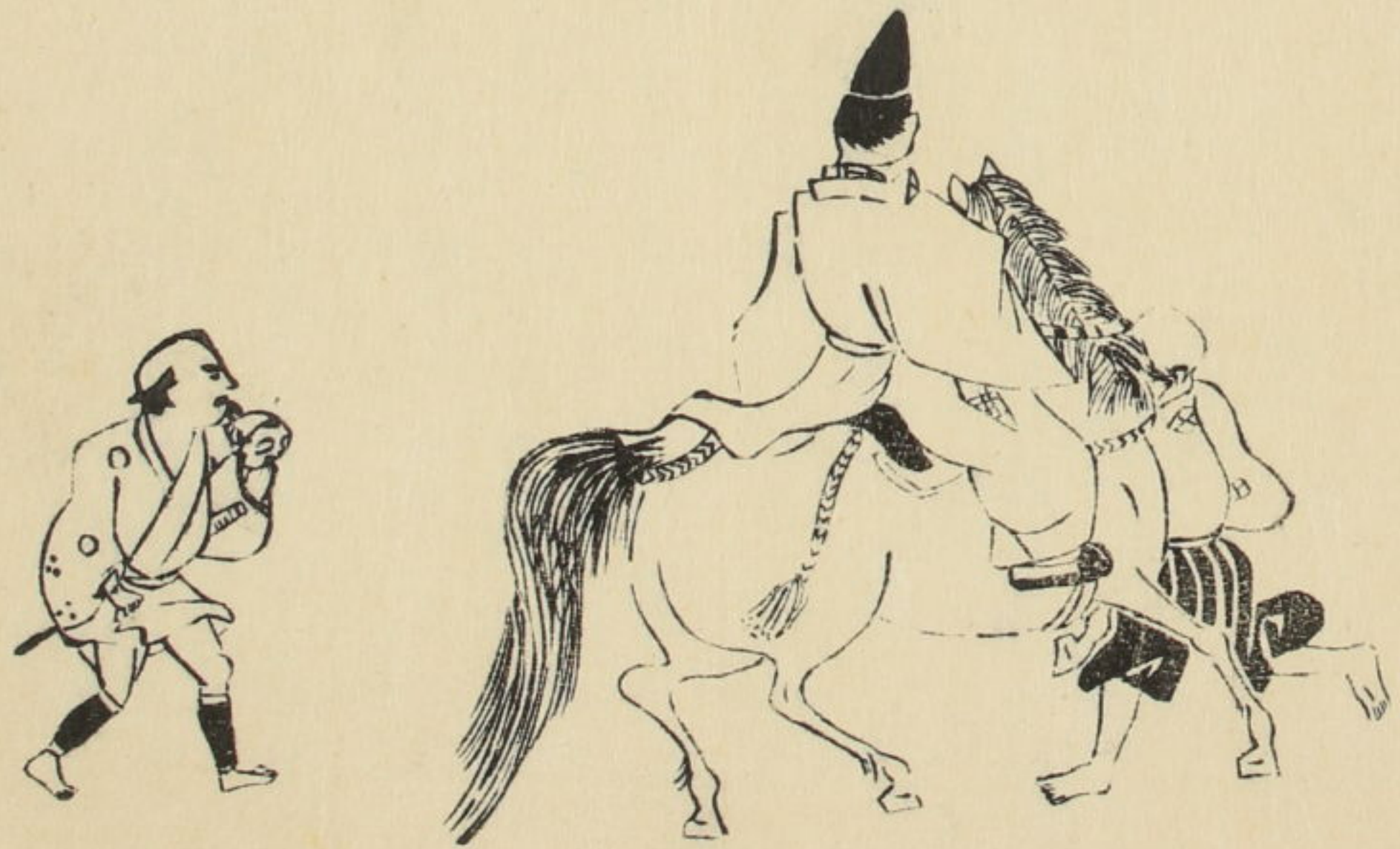
南大門  
行列有

六



奈良  
巫女





細男 六騎

影向の松子向ひ  
笛鼓して音示

泥障  
白張  
馬帽子

あり



猿樂一村

影向の松の前  
閑口 祝言 大夫

引矢祝言  
舟之祝言

今春 金剛  
祝世 保生

近年祝世一産御赦光  
列は 三産の内より毎年二産  
あり 一産も 産  
妻の産も 産



馬長兒 五騎

真福寺学侶  
より 輪番あり

児で 笠子 山 尾の 尾と 一 五  
色の 細き 紙を 又 御付の 尾を  
の 指衣 遊 赤 地 指 君 後 小 社  
舟の 造り 花と 負ふ 〇 老人 下  
大童子 白張 金の 縁 縁 金 未 廣 せ  
持 南 大門 西 輪 番の 假名 傍官  
と 名 あり 〇 又 三人 下 龍と 裁と  
白 張 衣 の の 故 竹 五 色 の 短  
冊と 付 腰 子  
木履 一 足 下  
付 一 つ 袖 子



同一村

今春 金剛 勤番の 年ハ  
引矢 祝言 立合 舞 小



短冊

あふ 恋  
さる 恋 要 入 恋  
あけ け 付 あり







公下月

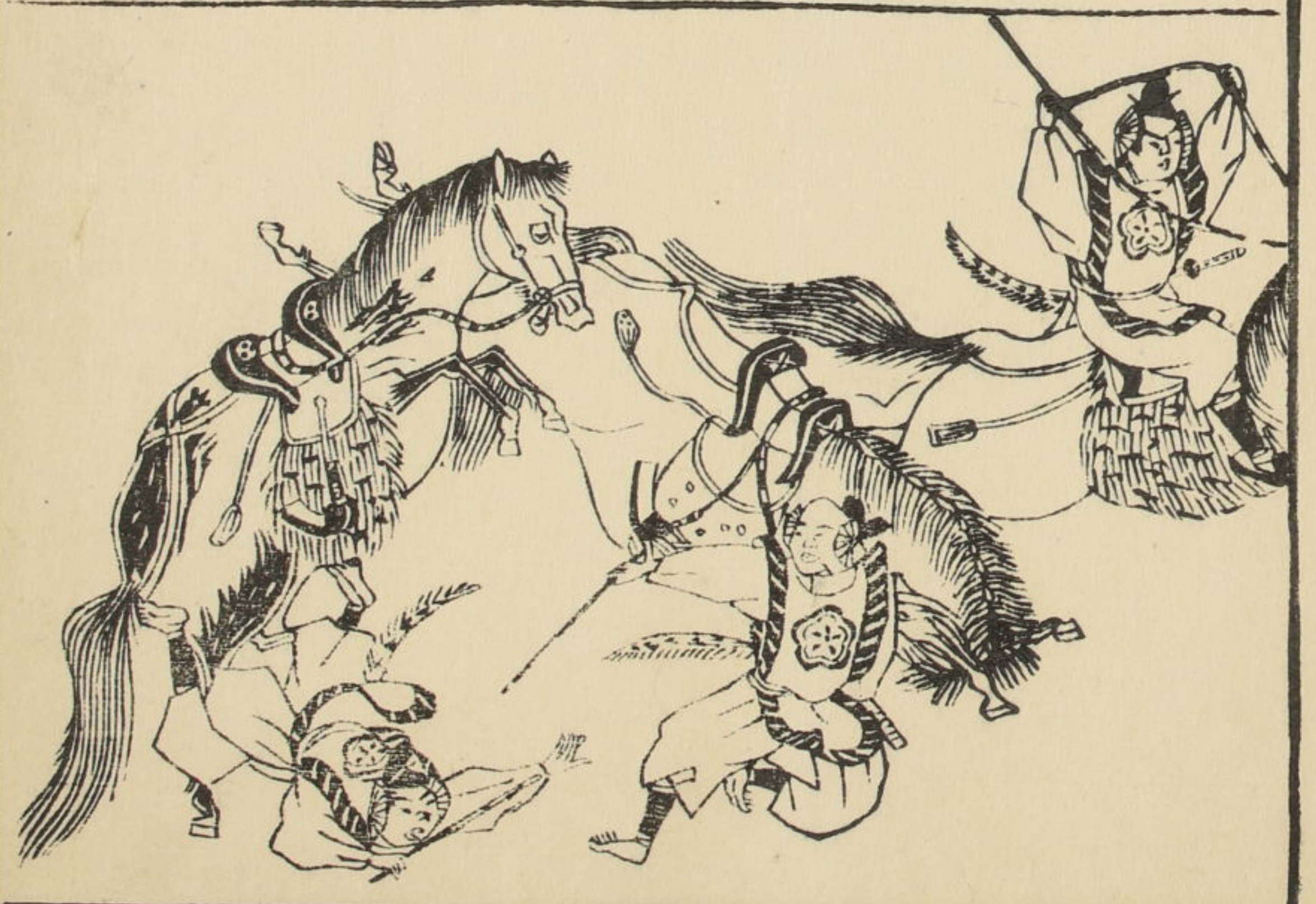
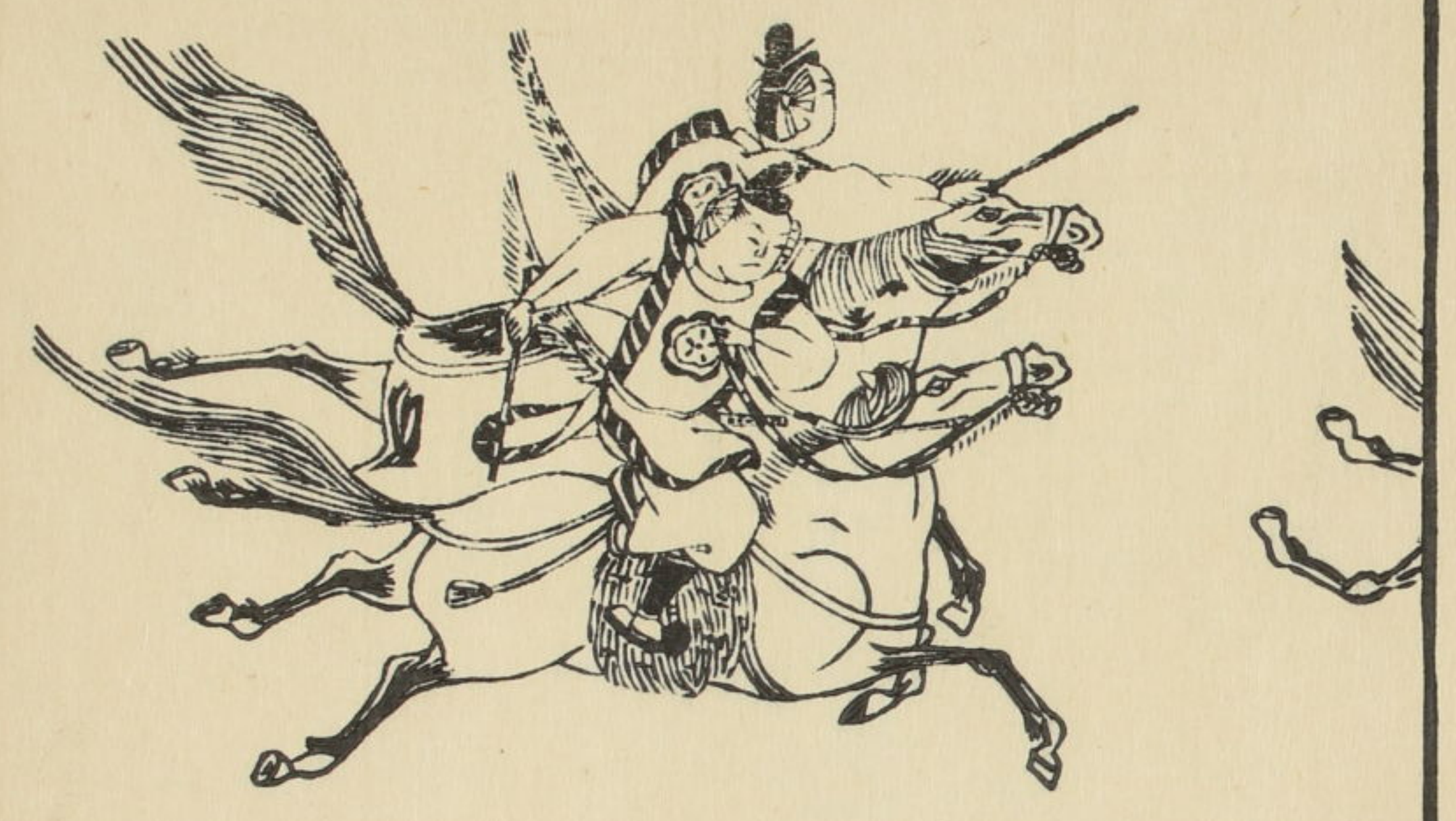
林之下月

九

八

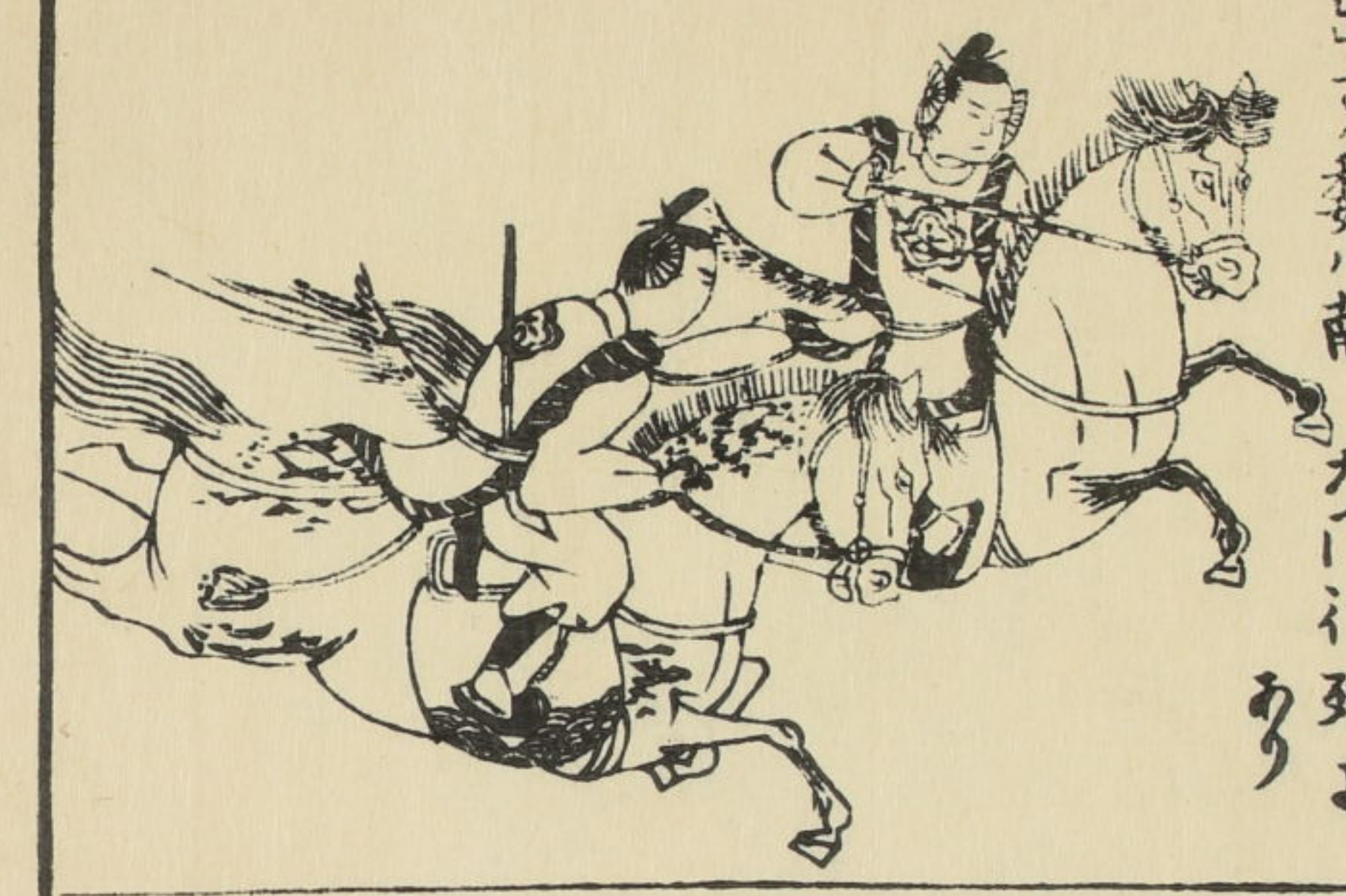


公之下行川



競馬 五雙

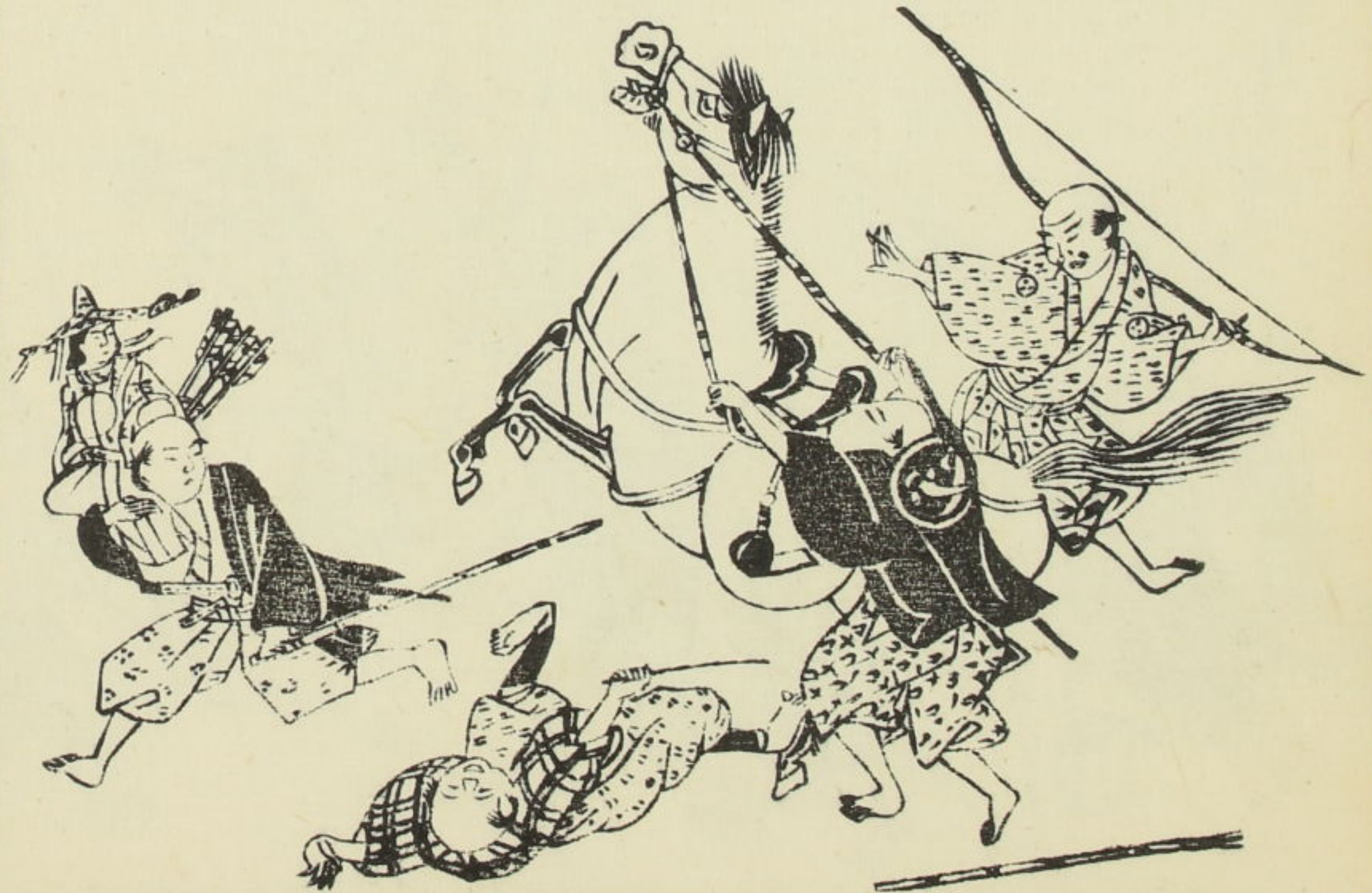
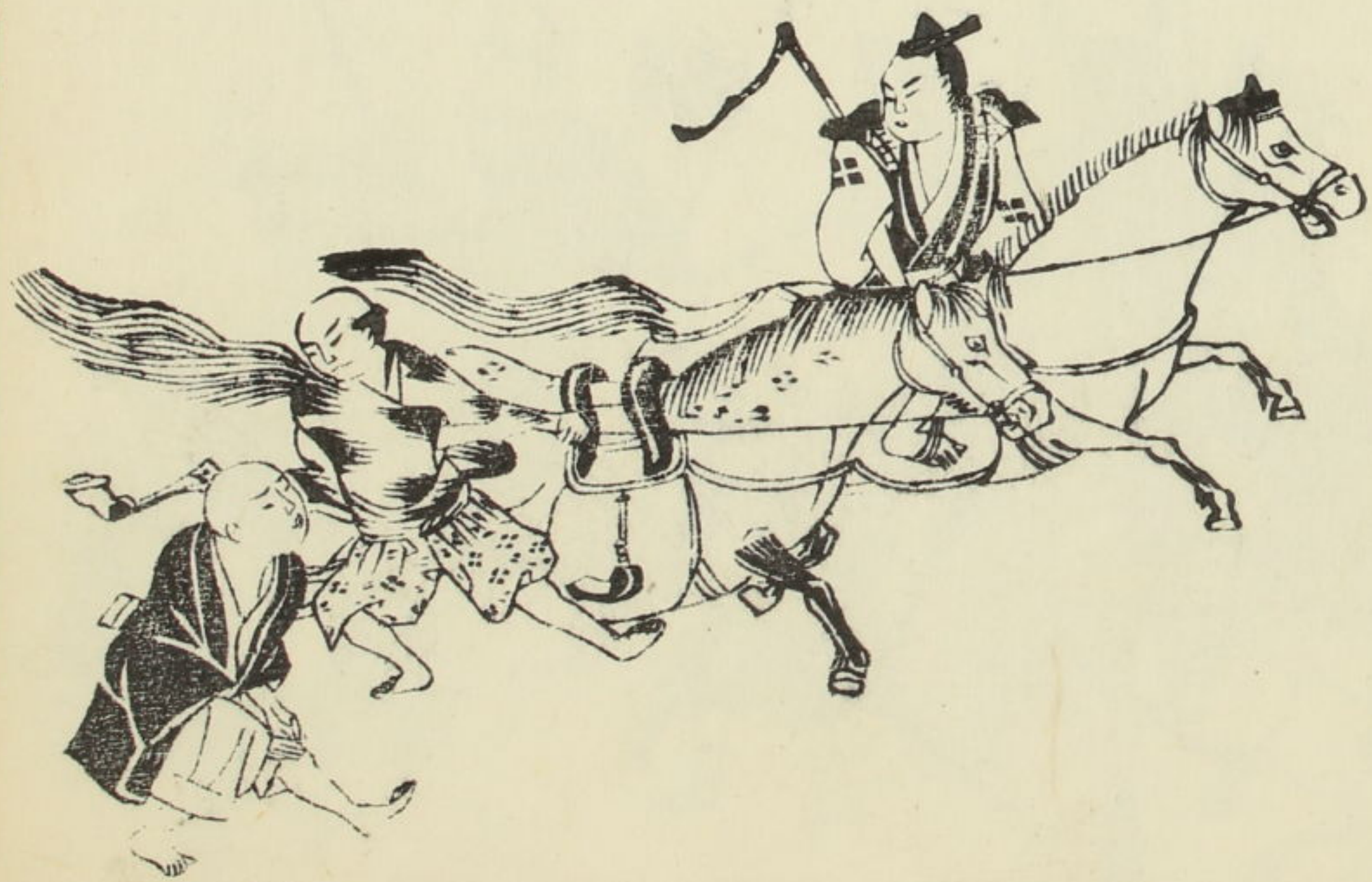
真福寺三領より  
青赤の将校  
迎代馬出し此掃より右の方へ  
退出す委ハ南 大門行列より



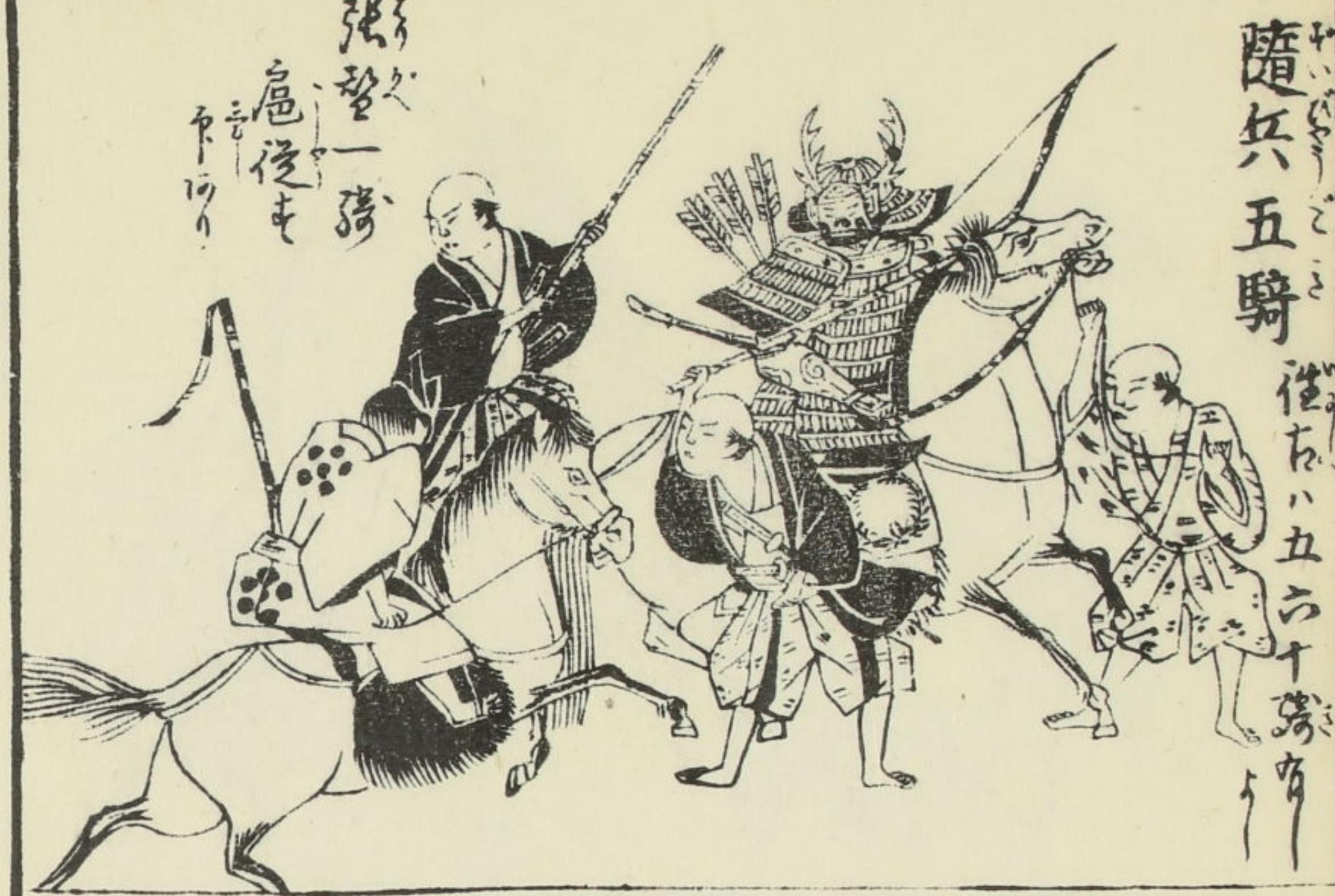
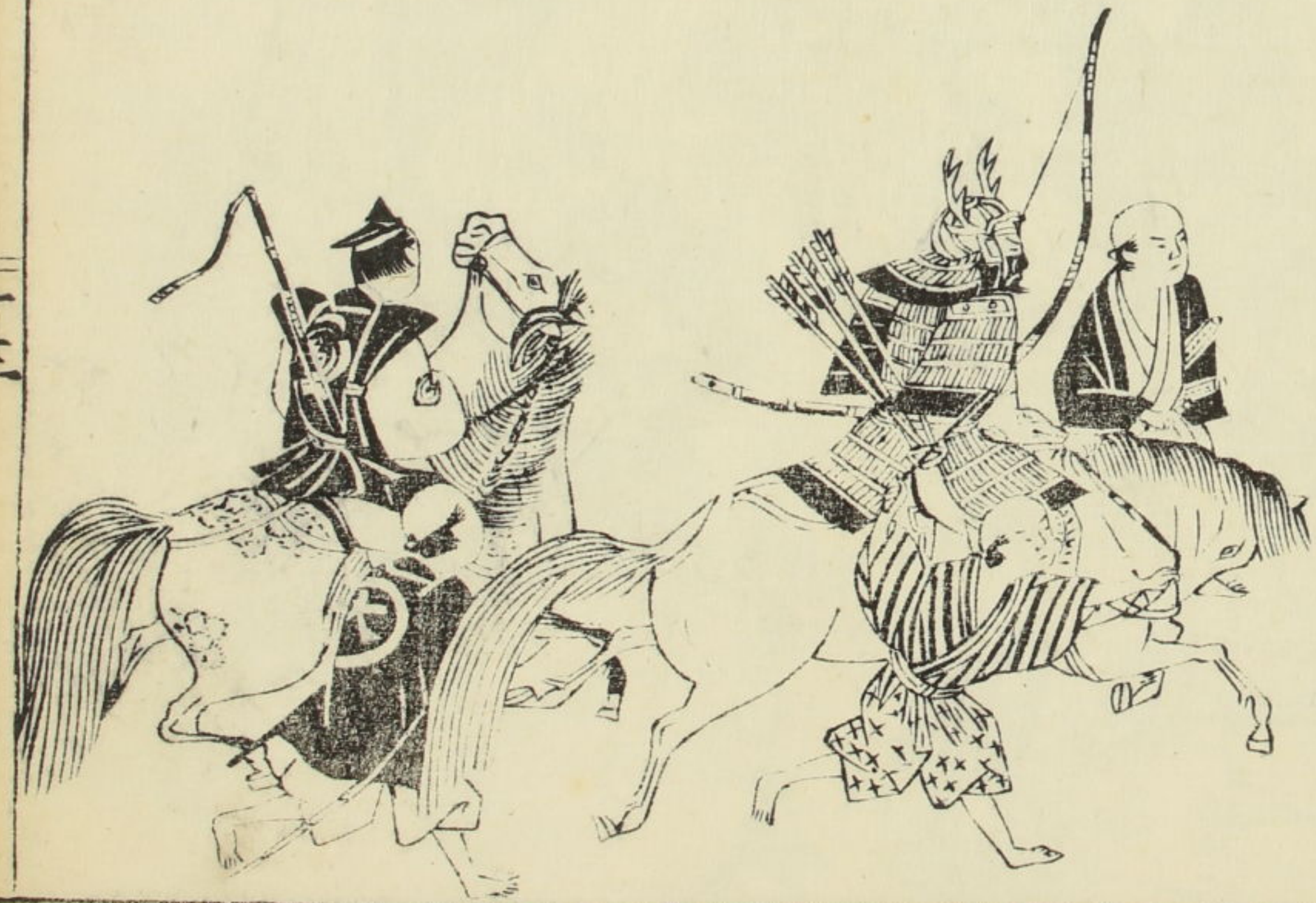
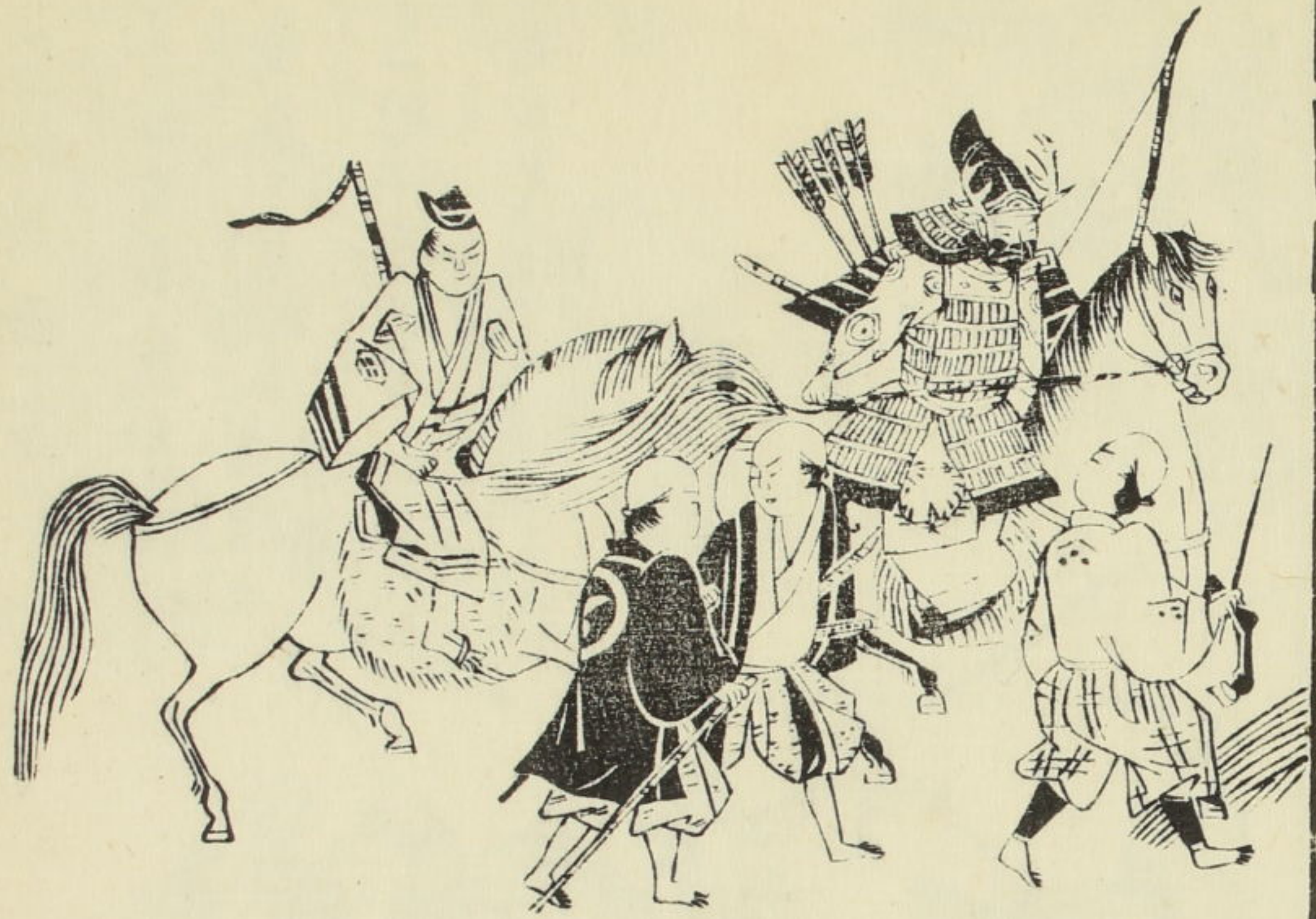








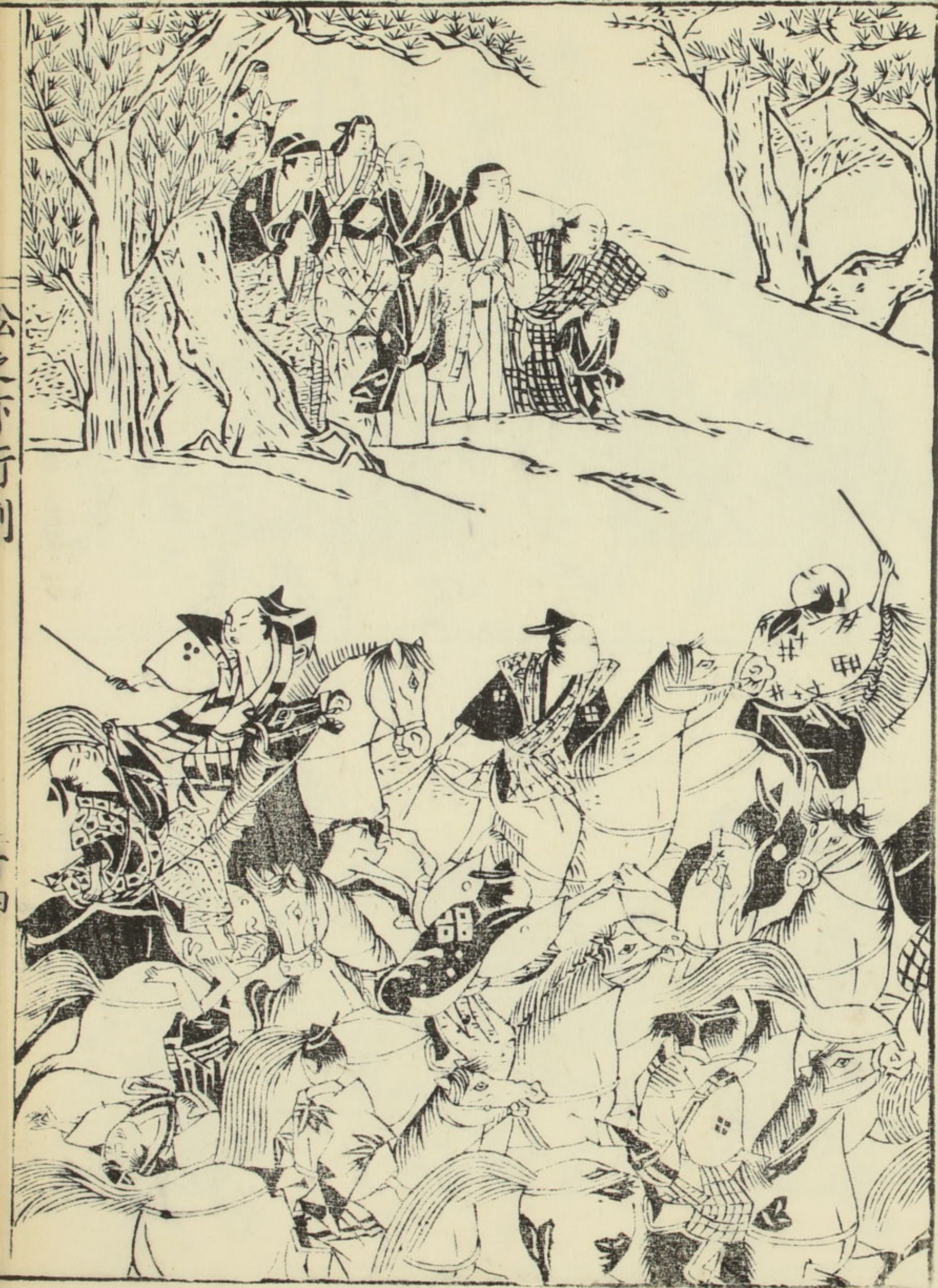




隨兵五騎  
僅有八五六十騎  
有







公家下り

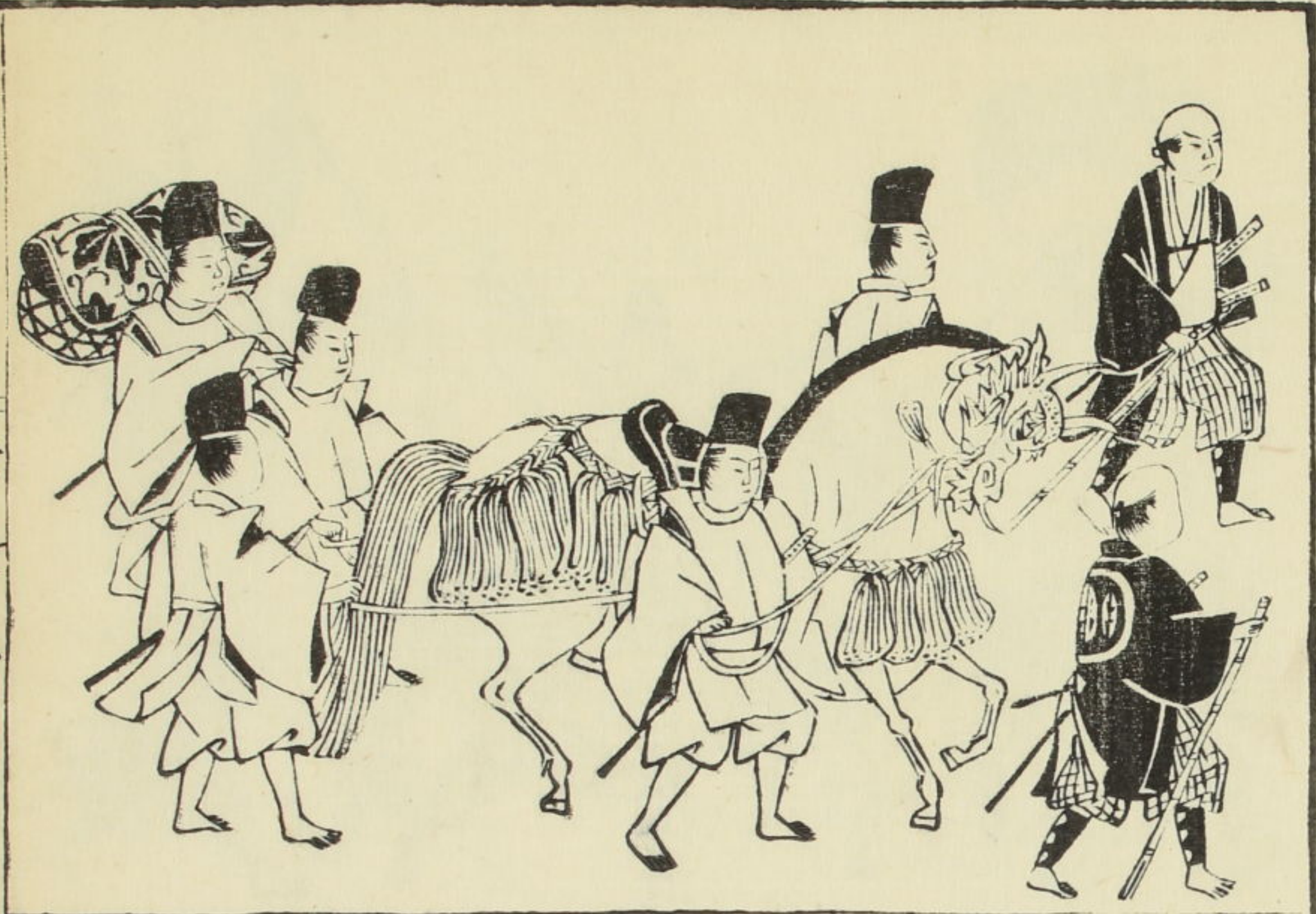


のりこ  
 分系込馬百三十三之  
 やまこ たいらぎ  
 大和文名其介領地 しんじの  
 及系よりある えい 馬 うま 習子 しゅうし  
 まがの の 素復 すく  
 ちの の 揚より あがり  
 退 たい の の 妻 つま 八 はち 木 き 門 かど 行 ゆき  
 列 りゅう 子 し あり

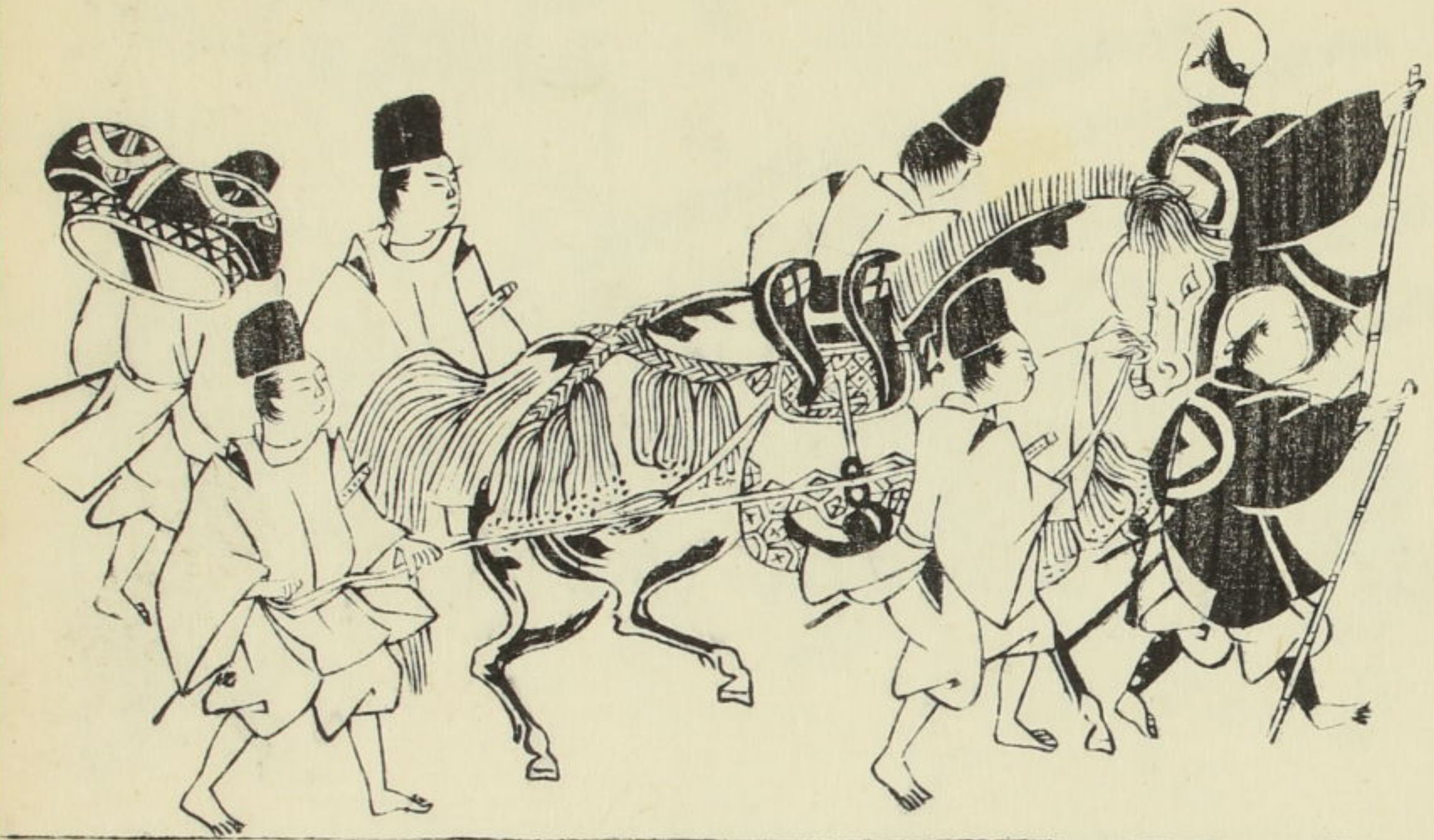
新三行

十三









公家下行列

右郡山

次ニ

○伊加<sup>い</sup>名<sup>が</sup>玉<sup>の</sup>城<sup>ま</sup>主<sup>ま</sup>の馬<sup>ま</sup> 大和玉子領地

十三七

多しあり

前後役人右郡山日影

次ニ

○當<sup>た</sup>國<sup>が</sup>高<sup>た</sup>取<sup>た</sup>城<sup>ま</sup>主<sup>ま</sup>の馬

十三七

右日影

次ニ

○當<sup>た</sup>玉<sup>の</sup>小<sup>こ</sup>泉<sup>すゐ</sup>

十三七

右日影



公家下行列



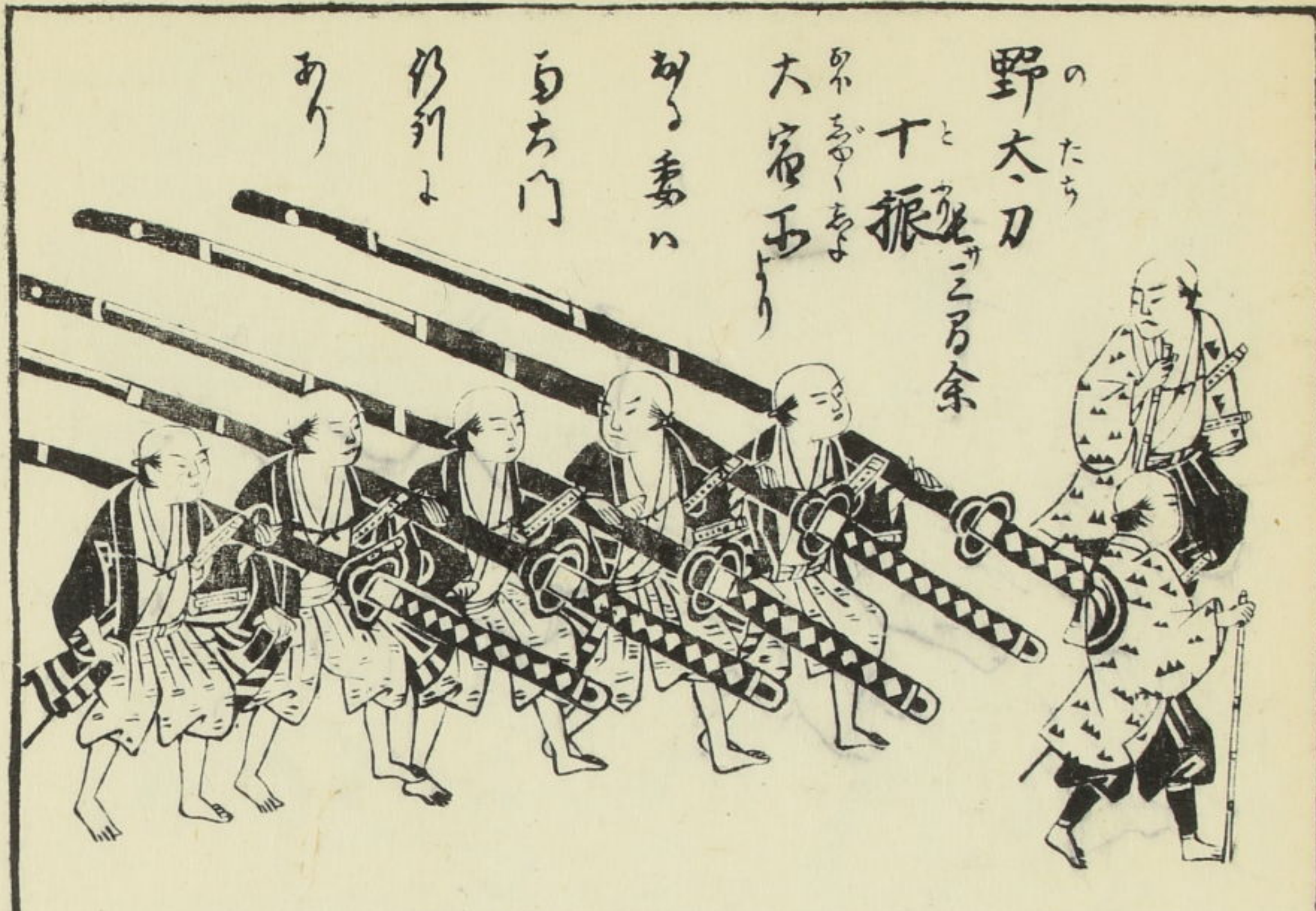
十三七





中太刀  
五振  
同  
五振

松之下行州



野太刀  
十振  
大宿  
あり  
乃引  
白方門

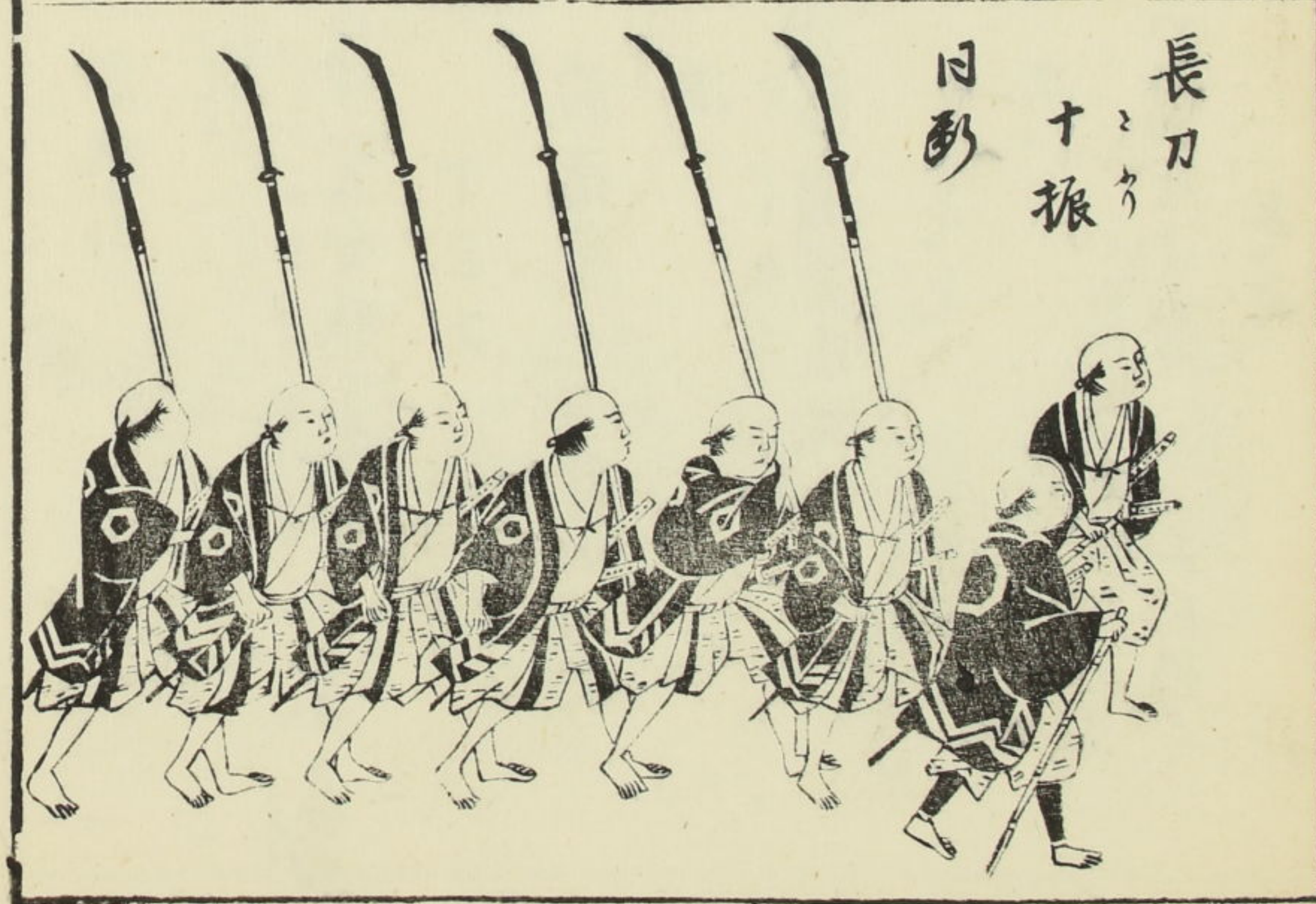
松之下行州



小太刀  
五十振

小太刀二腰  
警固一人  
柳生但馬守

十二



長刀  
十振  
日影

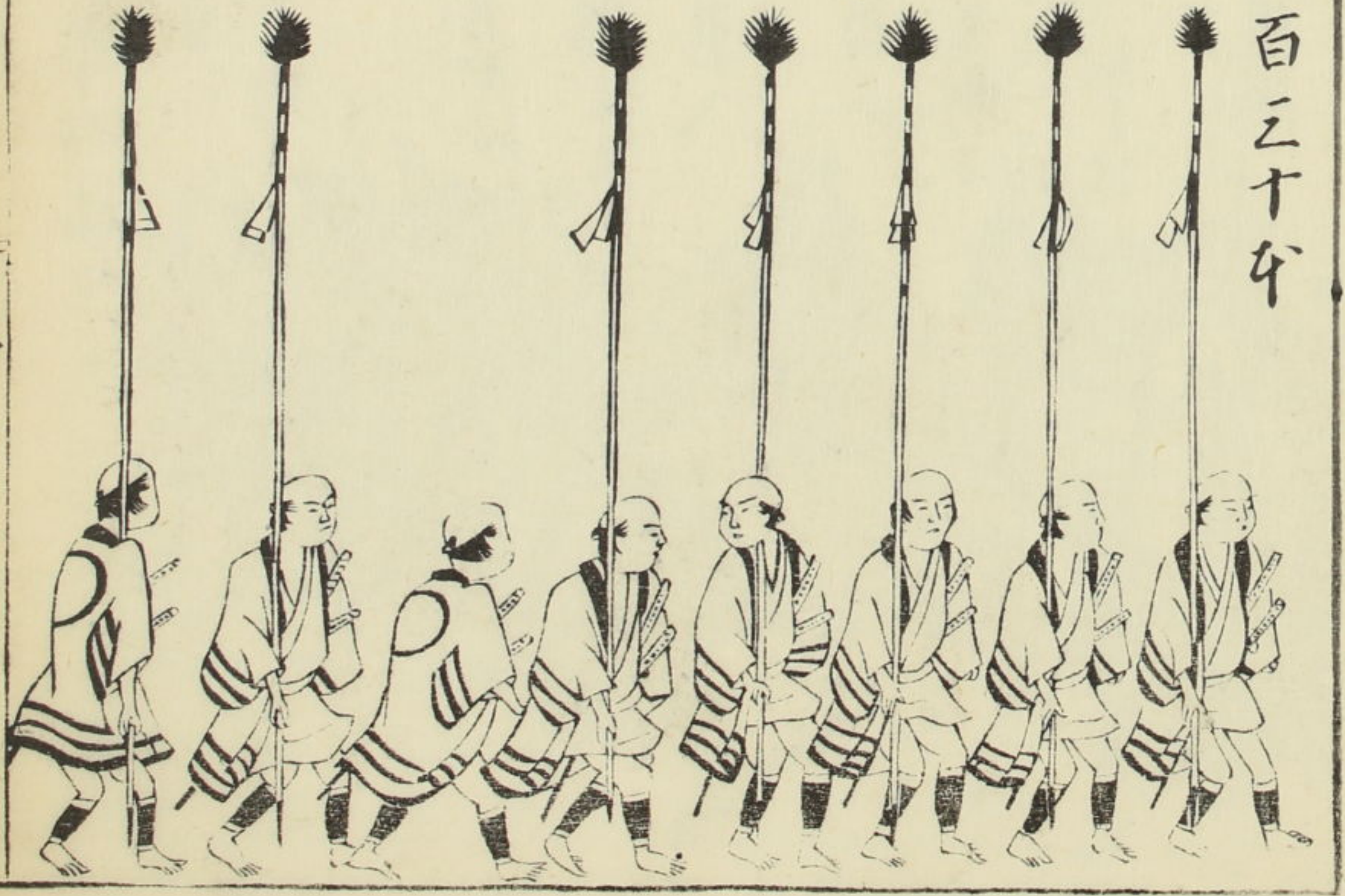
十二



馬場役 八人  
 右十一騎  
 南大門より  
 真よ  
 大馬居  
 馬上一  
 此雨と  
 休幕  
 居よ入



百三十分



公之下行刊

六

是有六  
 門より  
 直に体  
 幕居よ  
 此雨と  
 御師  
 三人



白張馬子

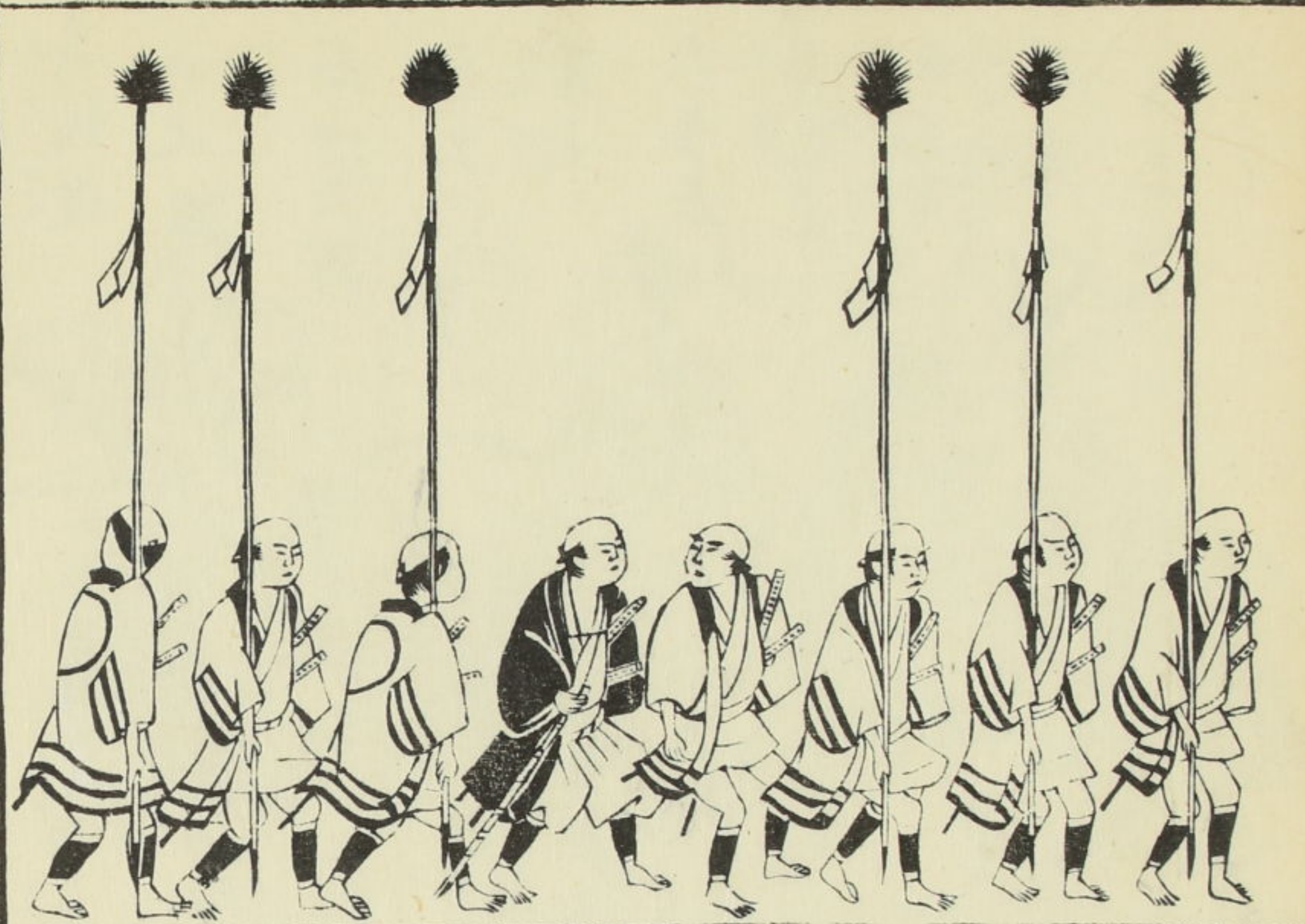
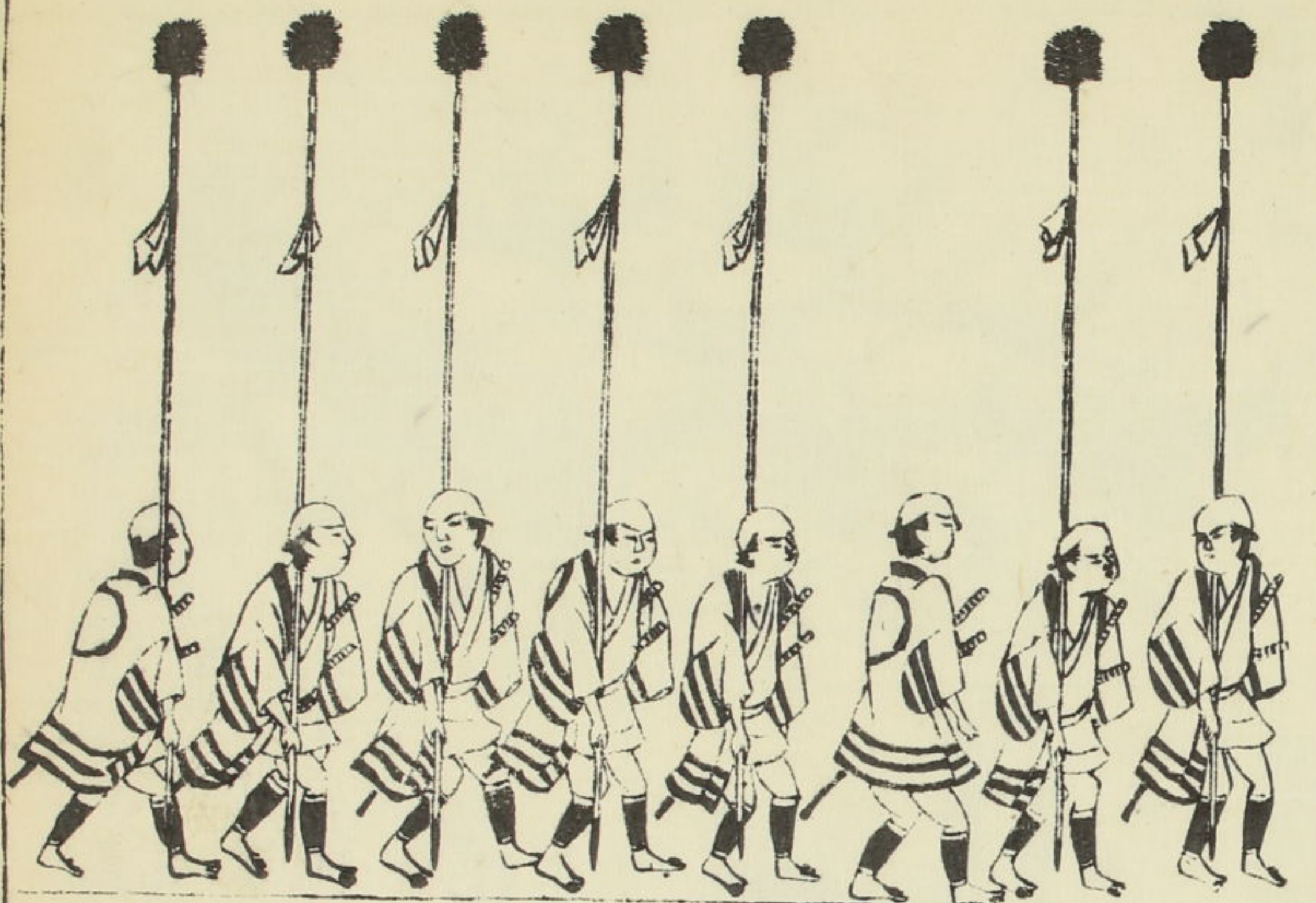
是より  
 那山  
 長柄  
 役人



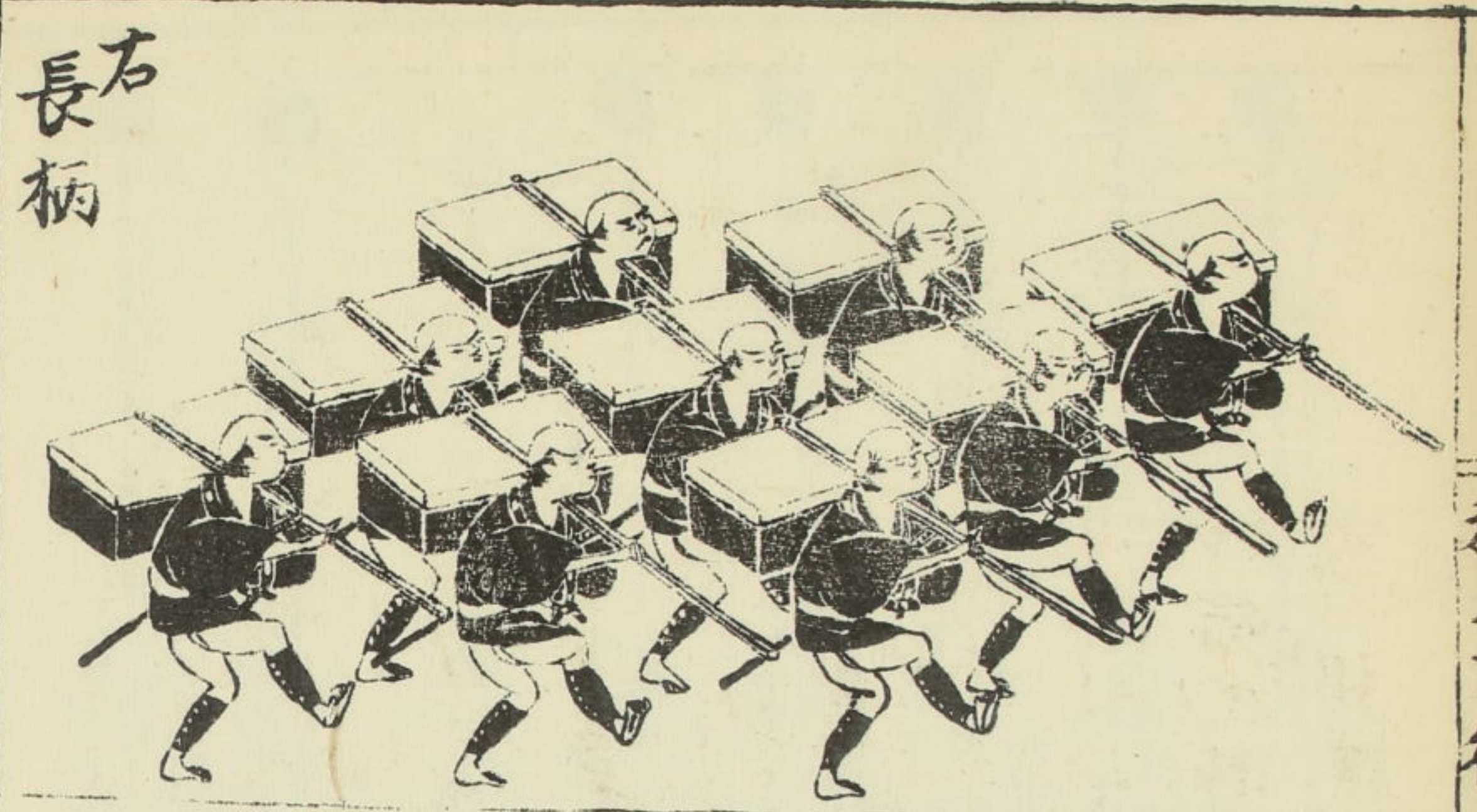
六

六









百世本

郡山

松平甲斐守

前後役人諸士行列如右

五十六本

藤堂和泉守

行列日影畧圖

三十本

植村右衛門

日影

六本

柳生但馬守

十三本

織田下野守

九日影

二本

栗山甲斐守

日影七本

三本

奥田伊賀守

九本

神保主膳

三本

織田伊賀守

五本

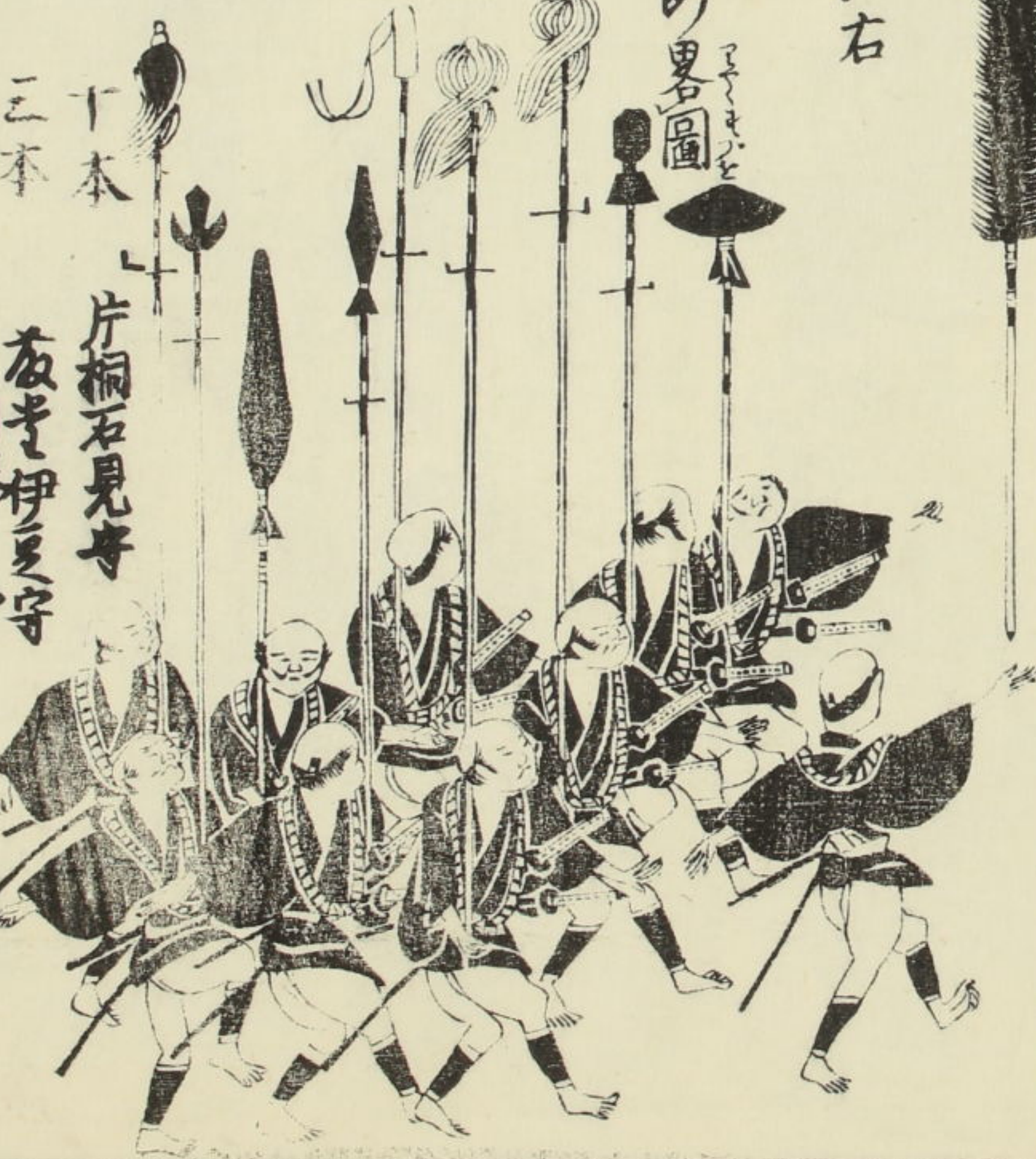
織田伊賀守

百六十本

御藏

六本

平野權平



公之下行列

二下



田樂法師一座 本座ト云十三人



五色之幣

影向の松より白ひ

偏木 刀玉 ち足の

曲作り

一箇法師

樂頭法師 二人

幣持法師 二人



一箇法師

段子の装束拵袴  
綾蘭笠 偏木役



但一箇法師斗

赤あよ白あの丸

赤ふ緑のぬひ白

あまあま

二箇法師

金網の侍衣拵袴

花笠本履中

笛の役

三箇法師より

一箇法師

甲侍衣拵

あまの丸

妻ハ南大門行列より



刀玉の曲



草子

高足の曲



同

田樂一座

新座

諸事

右本座

日一畧圖

右相渡 諸方同時に退散

松の下渡り相渡



